

～ 沖澤のどか指揮 京都市交響楽団『シェエラザード』によせて～
薄井憲二バレエ・コレクション常設展

vol. 103

『シェエラザード』

会期／2025年9月2日(火)～11月11日(火)
(※休館日はwebでご確認ください)

企画・構成／関典子(薄井憲二バレエ・コレクション・キュレーター)

2025年9月21日、兵庫県立芸術文化センターKOBELCO大ホールにて開催される「沖澤のどか指揮 京都市交響楽団」公演によせた展示をお届けします。「舞い降りる音楽絵巻」、「沖澤のどかが振るアラビアンナイトの世界!」と銘打たれた本公演で演奏されるのは、リムスキー＝コルサコフの交響組曲『シェエラザード』。本展では、バレエ・リュスの代表作『シェエラザード』(1910)にまつわる資料をご紹介します。公演鑑賞のお供に、どうぞお楽しみください。

バレエ『シェエラザード (Scheherazade)』

初演：1910年6月4日、パリ・オペラ座(フランス)
台本：アレクサンドル・ブノワ(『千夜一夜物語』に基づく)
振付：ミハイル・フォーキン
音楽：ニコライ・リムスキー＝コルサコフ
(交響組曲『シェエラザード』1888)

美術・衣裳：レオン・バクスト

出演：イダ・ルビンシュテイン、ワツラフ・ニジンスキー、他
シャリアール王のハーレム。王が狩りで留守にしている間に、王の愛妾ゾベイダと女奴隷たちは宦官長にすり寄り、男奴隷部屋の鍵を手に入れる。女奴隷たちは男奴隷たちを解放し、ゾベイダは金の奴隷との逢瀬を楽しむ。そこへ王が帰還し、女たちの不貞がばれてしまう。王は金の奴隷を含む男奴隷たちを皆殺しにする。ゾベイダは悲嘆のあまり短剣で自身の胸を刺し、自害する。王は愛妾の死を深く悲しむのだった。

1910年、バレエ・リュスの『シェエラザード』はセンセーションを巻き起こした。初演年には5回しか上演されなかったため実際にこの作品を目にした人は比較的少なかったが、その反響は瞬く間にパリ中に広まったという。

舞台美術・衣裳の魅力と流行

バクストの衣裳は、オスマンとペルシアの様式を想像上の東洋趣味として融合したものだった。エメラルドグリーンのカートンに赤い絨毯の舞台上で狂宴を繰り広げる男女の艶やかな衣裳。それらは一体となって「動く色彩のスペクタクル」を創出し、このバレエの熱狂的で暴力的なクライマックスを艶やかに飾った。ポール・ボワレらパリのデザイナーたちは

一斉に鮮やかなオリエント・ファッションを売り出し、ターバンとハーレム・パンツが大流行。『千夜一夜物語』をテーマにしたパーティが開かれたほどだった。バクストは一躍、パリ・ファッション界の寵児になったのだ。

リムスキー＝コルサコフの音楽

リムスキー＝コルサコフの同名曲(1888)の起用には、批判の声も上がったという。1908年に没した彼は、国民的な英雄と讃えられていた。そのため、彼の音楽をバレエに使用し、しかも音楽とは無関係の物語を作った上、一部の曲目を割愛したこと、さらには無許可で使用したことで批難されたのだ。リムスキー＝コルサコフの末亡人は、この行為について新聞上で抗議した。しかしながら、『シェエラザード』は、バレエ・リュス団長セルゲイ・ディアギレフが理想とする「総合芸術」すなわち「音楽、デザイン、振付、踊りを完璧に一つにまとめたあらゆる要素を含む芸術作品」を実現させた作品であり、人々は「あらゆる伝統から脱して、革新的な言葉をもったバレエを初めて目にした」と評されている。

出展資料

- ◆ PRBROF-01 バレエ・リュス公式プログラム／フランス：パリ・オペラ座／1910年
- ◆ PRBROF-07 バレエ・リュス公式プログラム／イギリス：ドゥルリー・レーン劇場／1914年
- ◆ PRBROF-08 バレエ・リュス公式プログラム／アメリカ：メトロポリタン劇場／1916年
- ◆ PRBROF-17 バレエ・リュス公式プログラム／フランス：シャンゼリゼ劇場／1920年
- ◆ CL-19 切り抜き／ジョルジュ・バルビエ画／1910年頃



参考映像

- ◆ マリインスキー・バレエ
『シェエラザード』(2025)

<https://youtu.be/R0c0o4eLDp8?si=ShZhe0VwQKiukWoD>



兵庫県立芸術文化センター

〒663-8204 兵庫県西宮市高松町 2-22

tel: 0798-68-0223 fax: 0798-68-0212

※ 禁無断転載・複製・引用

